

であるが、具体的内容を伺いたい。執行部に於いても更なる経費の削減を計画しなければならぬ状況下、1日でも早く公表できるものは公表し、市民の皆様方に理解をいただくことが必要だと思っ

保健福祉部長 介護保険料率の合併協議会の調整方針では、第1号被保険者保険料については平成17年度までは現行のとおりとし、平成18年度から第3期介護保険事業計画により算出した保険料率に統一するとされている。

この調整方針に基づき、現在、平成18年度から20年度までの3力年を1期とし第3期計画の中で、来年度から制度改正される予防重視型システムへの転換としての新予防給付及び地域支援事業の創設、新たなサービス体系の確立としての地域密着型サービス及び地域包括支援センター等の創設などを踏まえて、高齢者人口、要介護等認定者、各種サービスの利用者数及び見込み量などについて推計をしており、現在、保険料率の試算中である。

国保税の不均一課税については、合併調整方針において、新市において、速やかに調整することになっているため現在、調整を進めている。

調整の基本的な考えとしては、過去の実績をもとに、平成18年度から20年の3力年における保険給付費を含むすべての歳出、これに見合う国保税、国庫支出金、一般会計繰入金等の歳入のすべてについて試算をしている。また、被保険者の動向についても、年齢区分ごと、これは3歳未満、3歳から70歳未満、70歳以上に推計し、さらにそれに応じた1人当たりの年間保険給付費を算出して、全体の保険給付費について試算を行い、1人当たりの税額について試算をしている。なお、保険給付費の急激な伸びが予想される中で、保険税に与える影響も大きくなることが予想されるので、精査に精査を加えて、現在、シミュレーションを行っているところである。

3 市道の改良・整備について

都市計画道路新宿西宮線は、鯨ヶ丘の台と、その東西に広がった新市街地を高架橋で結ぶ街路として計画され、国道349号バイパスから進徳幼稚園までは開通しているが、その後は進展がない。現在の状況と今後の対応について伺いたい。さらに、現在進められている、国・県道整備にあわせた交差点

の形状、取りつけ道路の整備計画など、さらなる市道整備も求められると考えるが、今後の計画について伺いたい。

建設部長 都市計画道路新宿西宮線の今後の見通しについては、西側区間は、共有地7筆の相続手続の問題や、境界未確定の土地が多く存在しており、早期の用地取得が困難であるため、平成14年度から補助事業について休止をしている状況である。整備事業の進捗には境界問題が最重要課題であるので、現在、この解決に向け、権利者の確定等の調査を行っているところであり、西側区間の整備については、まだ期間を要する状態である。

しかし、新宿西宮線の現道が国道293号に接続している箇所は、道路幅員が狭く、車両同士のすれ違いが困難な状況にあり、進徳幼稚園から国道293号に接続する区間のうち、延長111メートルについては、暫定的な整備であるが、車道幅員を5.5メートルに拡張し、一部区間には歩道を整備する工事を今月中に発注契約し、今年度事業で実施する予定となっている。

国道・県道整備と市道整備計画の整合性については、本市の道路整備は、広域的骨格軸として、南部地区

を東西に国道の293号、南北に349号が、北部地区には国道461号が東西に横断しており、これに他の幹線道路が連絡し合い、道路網を形成し、それぞれ整備促進を図っているところである。その中で、交差点の改良を計画する場合には、道路交通安全処理のため、道路管理者あるいは県警と、交差点の形状、交差点、交差点の間隔等について協議をし、計画を策定しているところである。

現在、世矢小学校東側、国道293号バイパスの交差点箇所については、市道のつけかえ工事を行っている。直角にすることによって安全の確保を図っている。

同じく293号の小目町の川中子の交差点の改良ということで、小中学校の通学路及び国道の渋滞解消するため交差点の改良を行っている。さらに、今後、国道461号の整備をする中で、交差点の改良についても、市道の円滑な交通を考慮して計画をしてまいりたいと考えている。

今後の市道整備計画の主な事業としては、地方道路の整備臨時交付金事業として、里野宮白羽線、大門幹線、磯部天神林線、そして栗原小島線等を予定している。

道整備交付金事業としては、高柿千寿線、過疎対策事業債としては、蚬

の通報になっている。

3 行財政について

すべての事業を対象に、行政の仕事として必要かどうか洗い直し整備していくこの事業仕分けは、民間シンクタンク「構想日本」が提唱したもので、2002年2月以来、13自治体で作業をスタートさせている。民間の専門家による視点を導入して、徹底した論議を行うため、行政担当者の意識改革にもつながり、関係者の納得の上で歳出削減を実現しようとする点が大きく評価されているが導入について考えを伺いたい。

また、現在、合併後の本市においては、国保税の不均一課税を行っているが、合併調整方針では速やかに調整するとなっているので、均一化に向けた税率の試算を行っているところである。保険給付が増加する状況下、国保財政も厳しくなり、保険税負担が年々大きくなるものと考えられるため、保険税の均一化に向けて、被保険者の立場からさらなる検討を加えているところである。

緊急時の緊急通報システムの利用等の現況は、平成17年1月から11月までの通報件数は718件に対し、救急車出動が25件、誤報が442件、残りがテストの通報で、電池切れ等

進するに当たり、参考とさせていただきたい。

高木将議員

1 殺害事件が頻発する中、幼小児の安全対策について

地域子ども安全ボランティアへの登録が、現在、約600名とのことであるが、個人情報保護の観点で、ボランティアの方々の名簿は配布されないが、事件発生時や不審者の車両及び人物が発見された際に連絡をとり合うことができないようなシステムづくりも必要だと思ふ。せめて小学校区単位とか、相互認識と理解をした上で名簿の配布も必要ではないかと思ふが考えを伺いたい。

教育長 幼小児の安全対策としての地域子ども安全ボランティアについては、個人情報保護の問題もあり、会員の間の名簿配布はしていないが、会員にさらなる活動の協力要請をした際、了解を得ているので、各学校ごとに会員による連絡会を開くよう

【山口議員他の質問事項】
・観光について

に話をした。既に話し合いが行われており、横の連携を密にした組織的な活動が行われている。巡回の方も強化をされてきている。

なお各学校では、今までも、運動会、ふれあい祭り、収穫祭などの学校行事等に会員を紹介し、交流を深めてきている。協力を得るためには、日ごろの交流が極めて大切であるので、今後さらなる交流・連携が密になるように、学校関係者とも話し合いをしていきたいと考えている。

2 平成18年度予算編成に当たり、合併時の調整項目の進捗について

合併後に調整する項目の中で、介護保険料、国民健康保険税の額の調整等、増税を予定しなければならぬなど、市民の皆様方に負担増をお願いせざるを得ないよう